

# と議会だより とのしよう



元いじめっ子！  
**土庄町**



どきどき、わくわく今日から1年生！～北浦小学校最後の入学式～

新年度予算決まる	2-3
子ども医療費の無料化を拡大	4
予算を審議	5
町長の施政方針を問う	6
委員会の活動報告	7-9
町長給与を1年間50%減額	9
一般質問（7人の議員が町政を問う）	10-13



～前年度より 11.6%増～

# 一般会計予算85億1300万円が成立

## 3月定例会

3月定例会が3月7日から25日まで開かれ、初日に町長の平成26年度施政方針の説明の後、平成25年度補正予算8件、平成26年度当初予算12件、条例18件、その他3件の議案が提出されました。また、追加議案として人事案件2件と、議員提案の条例1件が提出され、委員会付託による審議を経て、すべて原案どおり可決しました。

一般質問では、7人の議員が町政について質問を行いました。

## 平成26年度に実施する主な事業

小豆新病院の建設費用を含む  
小豆医療組合の負担金

### 公立病院 再編整備事業

7億  
3411  
万円



### 子ども医療費支給事業

中学校卒業までの子どもの  
医療費を無料化



1214  
万円

9977  
万円

町内公共施設に太陽光発電設備を整備し、  
防災拠点としての機能を強化

### 再生可能エネルギー等 導入事業



11億  
5530  
万円

### 小学校建設事業

来年4月に開校する新小学校の建設



### 土庄町・琴塚・田井・大部地区 土砂災害ハザードマップ

●インターネットによる防災情報の入手先  
●土砂災害ハザードマップの作成・配布  
●土砂災害ハザードマップの作成・配布

529  
万円

### 土砂災害、地震・津波ハザードマップの作成・配布 ハザードマップ作成



1552  
万円

### 民間建築物 耐震対策支援事業

民間住宅の耐震化に対する補助



835  
万円

高見山公園に句碑を移設、  
遊歩道を整備

### 高見山公園 句碑移設事業



### 港整備交付金事業

田井漁港の整備工事

9000  
万円



予算案に対する討論

平成25年度

一般会計補正予算

反対 福本議員

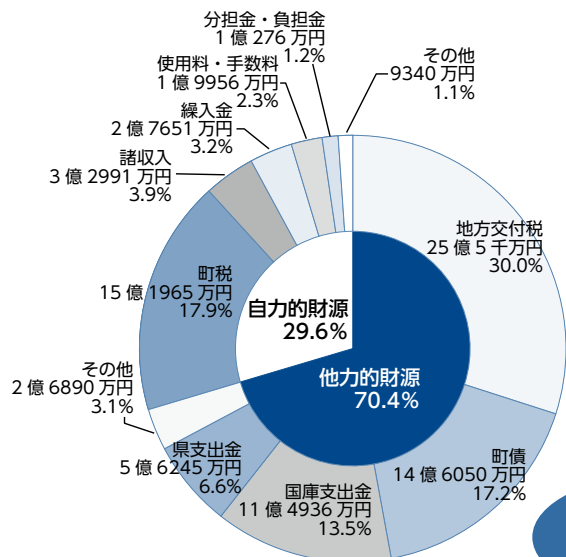
新病院建設に反対する立場から、公立病院再編整備や、土庄中央病院跡地利用のための予算に反対する。

賛成 上川議員

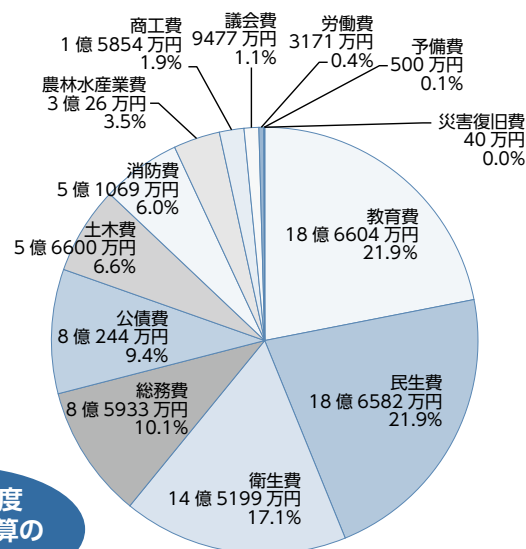
新病院建設は町民の望みであり、進めるべきなので賛成する。

新年度予算

# 新小学校、新統合病院、消防庁舎など 大型投資事業が本格化



歳入 85 億 1300 万円



歳出 85 億 1300 万円

平成26年度各会計予算

会計名	26年度予算額	対前年度比	議決結果(賛成:反対)
一般会計	85億1300万円	11.6%	可決(10:2)
特別会計			
簡易水道	2362万円	1.3%	可決(12:0)
国民健康保険	21億2960万円	1.7%	可決(11:1)
港湾整備	1億870万円	△13.5%	可決(12:0)
宅地造成	1億6970万円	77.7%	可決(12:0)
大鐸財産区	951万円	△69.5%	可決(12:0)
農業集落排水	2351万円	1.8%	可決(12:0)
介護保険	15億9775万円	4.2%	可決(12:0)
福祉サービス	1億2766万円	3.0%	可決(12:0)
後期高齢者医療	2億2833万円	△1.9%	可決(11:1)
企業会計			
水道事業	13億8024万円	29.0%	可決(12:0)
病院事業	18億9405万円	△2.1%	可決(12:0)

平成25年度補正予算

会計名	補正額	補正後	主な内容	議決結果(賛成:反対)
一般会計	2億1053万円	79億7423万円	馬越港建設工事 新小学校建設工事 の前倒し実施	可決(11:1)
特別会計				
国民健康保険	2982万円	21億3556万円	療養給付費の増加	可決(12:0)
大鐸財産区	—	3122万円	翌年度への事業の繰越	可決(12:0)
介護保険	6317万円	16億5442万円	サービス利用実績の増加	可決(12:0)
福祉サービス	—	1億2999万円	財源の更正	可決(12:0)
後期高齢者医療	△200万円	2億3073万円	受診者減少による健康診査委託料の減額	可決(12:0)
企業会計				
水道事業	△2億7355万円	7億9868万円	肥土山浄水場更新工事の減額	可決(12:0)
病院事業	—	19億3505万円	財源の更正	可決(12:0)

※議案の採決は議長を除いて行います。

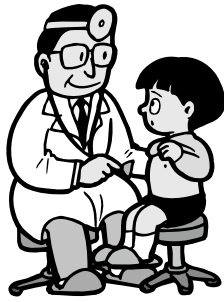
**賛成** 山本議員  
土庄町の国保医療費は県下でも低い。今後もし引き続き努力していただきたいので賛成する。

**賛成** 濱中議員  
制度そのものが必要であると思うので賛成する。

**反対** 福本議員  
新病院建設、同和事業、マイナンバーシステムの導入、し尿収集民間委託、中央グラウンドへの消防庁舎の建設のための予算に反対する。

**反対** 福本議員  
高すぎる国保税を納められないという声が上がっている。高すぎる国保税を前提とした予算に反対する。

**賛成** 福本議員  
国民健康保険事業特別会計



# 子育て支援 今年8月から医療費無料化を 中学卒業までに拡大

## 主な条例の一部改正

### ◇役場組織の変更

人権対策課を住民環境課に、債権管理室を出納室にそれぞれ再編する

### ◇教育長の給与を減額

月額52万3千円から52万1千円に減額

### ◇看護学生等への修学資金貸付対象の変更

公立病院の再編に伴い看護学生、理学療法士、作業療法士修学資金貸付対象に、新病院での勤務を希望する者を加える

### ◇重度心身障害者医療費の自己負担を廃止

今年8月から、支給対象者のうち課税世帯の自己負担を廃止

### ◇議会委員会条例の改正

役場組織の変更に伴う常任委員会所管課の変更と、常任委員会・議会運営委員会の委員定数を7人から6人に変更

## 主な条例の制定

### ◇子ども医療費の無料化を拡大

今年8月から、中学卒業までの子どもの外来医療費も無料化

### ◇町有施設の使用料等を変更

消費税増税に伴い、公民館、体育館等の施設使用料、水道使用料などを変更

## 人事案件

### ◇監査委員の任命に同意

監査委員の任期満了に伴い、新たに監査委員の任命に同意  
大峯茂樹氏  
(65歳・大木戸)

### ◇教育委員の任命に同意

任期途中で教育委員が辞任したことに伴い、教育委員の任命に同意  
岡見珠美氏  
(57歳・刈崎)

## 条例議案に対する討論

消費税法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例

### 反対 福本議員

消費税増税に賛成する

のであれば、公共サービスに対する消費税増税の負担を住民に押し付けるべきではない。

### 賛成 川口議員

消費税増税分の転嫁は適当だと判断する。

地域の元金臨時交付基金の設置、管理及び処分に関する条例

### 反対 福本議員

この交付金は安倍政権のばらまき政策であり、迎合するべきではない。

区分	議案の内容	議決結果(賛成:反対)
条例の一部改正	土庄町行政組織条例	可決(12:0)
	土庄町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例	可決(12:0)
	土庄町教育長の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例	可決(12:0)
	土庄町財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例	可決(12:0)
	土庄町集会所の設置及び管理に関する条例	可決(12:0)
	土庄町社会教育委員に関する条例	可決(12:0)
	土庄町重度心身障害者等医療費支給に関する条例	可決(12:0)
	土庄町看護学生修学資金貸付条例	可決(12:0)
	土庄町理学療法士及び作業療法士修学資金貸付条例	可決(12:0)
	土庄町小江自治会館の設置及び管理に関する条例	可決(12:0)
条例の制定	土庄町準用河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例	可決(12:0)
	消費税法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例	可決(11:1)
	土庄町太陽光発電等設備管理基金の設置、管理及び処分に関する条例	可決(12:0)
	土庄町地域の元金臨時交付金基金の設置、管理及び処分に関する条例	可決(11:1)
	土庄町池西正輝教育振興基金の設置、管理及び処分に関する条例	可決(12:0)
	土庄町子どもに対する医療費助成条例	可決(12:0)
	土庄町包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例	可決(12:0)
その他	土庄町小規模ため池防災対策特別事業分担金徴収条例	可決(12:0)
	土庄町辺地に係る総合整備計画の変更について	可決(12:0)
	土庄町道路線の廃止について	可決(12:0)
人事案件	土庄町道路線の認定について	可決(12:0)
	土庄町監査委員の任命について	可決(12:0)
	土庄町教育委員会委員の任命について	可決(12:0)



## 総務建設常任委員会 での主な質疑

### 総務課

《委員》公共施設の使用料等に、消費税増税分を上乗せしなくてもよいのではないか。

《答》町の公共施設等の維持管理費についても、消費税増税分増加する。また、国からも引き上げに対応するよう通知が来ている。

### 農林水産課

《委員》町道の補修は町が行ってくれるが、農道は原材料支給のみである。地域全体で道を守る仕組みを考えてはどうか。

《答》町道は不特定多数の人が利用し、公共性が高いが、農道の利用者は限られているので、原材料を支給して、補修してもらっている。

### 企画課

《委員》小豆島オリーブバス(株)へ職員を1人派遣することになっているが、ずっと支援していくのか。

《答》出資金の増資、職員の派遣により経営がバナンスを強化する。将来的には公設民営による運営も考えられる。



### 税務課

《委員》固定資産税の滞納繰越分に、時効が成立している徴収不能のものは含まれていないか精査してほしい。

←後日委員会を開催  
《答》徴収不能の税は含まれていない。

### 商工観光課

《委員》商工業振興団体助成金が210万円増えているのはなぜか。

《答》商工会はイベントも多く、助成増額の要望もあり、増額している。

### 債権管理室

《委員》旅費の予算が約45万円となっているが、そんなに必要なのか。

《答》無用なトラブルを避けるため、差押えを実施するときなど、相手方の所に直接出向いている。

### 建設課

《委員》宅地造成事業特別会計の埋立地売却代金は、どこの土地のことか。

《答》王子前埋立地5筆分の売却予定額を計上している。

### 水道課

《委員》消費税増税に伴う給水料金の改定を行うのであれば、住民に分かりやすく周知してほしい。

## 教育民生常任委員会 での主な質疑

### 福祉課

《委員》今後、介護保険料は上がるのか。

《答》最近新たに町内にデイサービス等の介護事業所が開設していることで、保険料を上げることになると思う。次期介護保険計画にどれだけ新規事業所の開設等を見込むかによって上げ幅は変わる。

《委員》小豆医療組合の負担金は、均等割20%・人口割80%となっているが、新病院の建設位置を考えると、小豆島町の方が受益が大きいと思われるので、均等割を見直してほしい。

町の予算の中で、医療組合や広域事務組合の負担金の額は分かるが、事業の全体的なことが分かりにくい。予算や公債費残高についても周知してほしい。

### 健康増進課

《委員》訪問介護サービスの利用は減っているのか。

《答》25年度は気候の影響等もあり、若干利用が減少したと考えられる。



### 住民環境課

《委員》し尿収集民間委託の今後の予定は。

《答》26年度末には豊島を除く地域で民間委託が完了する予定。

### 生涯学習課

《委員》小豆消防署庁舎建設に伴う中央グラウンドの利用制限への対応は。

《答》建設主体である消防との意思疎通を図り、町民に迷惑がかららないように対応していきたい。

### 土庄中央病院

《委員》25年度の赤字はどれくらいになる見通しか。

《答》赤字は約3億7千万円の見込み。4月から、看護師不足のため、病床を34床休床し、看護単位も変更する。診療体制の変更としては、小児科は入院や特別な治療を要するものは他院に搬送しなければならなくなる。

《委員》小豆島の医療について、小豆2町で早急に協議していただきたい。そのためのプロジェクトチームも立ち上げて進めてほしい。

### 教育総務課

《委員》新小学校ができれば、小学校にかかる費用が少なくなると思うが、試算はしているか。

《答》一番大きいのは教職員の人件費だと思うが、県費になる。町の予算としては、用務員の賃金等は減るが、詳しくは試算していない。

## 1 住んでよく、訪れて よかったと思えるまちづくり

- 現代アートによる町おこしプロジェクト「小豆島とのしょうアート化計画」の推進
- 青年就農給付金制度を活用し、新規就農者への支援を継続
- 有害鳥獣被害防止対策を強化

## 2 誰もが安全で安心して 暮らせるまちづくり

- 消防庁舎の建替え、消防救急デジタル無線整備など消防・救急体制を強化
- 町内全地区の土砂災害ハザードマップ、地震・津波ハザードマップを順次作成、配布
- 町内4施設に太陽光発電と蓄電池設備を整備し、防災拠点としての機能を強化



## 3 子育てしやすく、 賑わいのあるまちづくり

- 中学校卒業までの子どもの医療費を無料化
- エンゼル祝金・すこやか手当、病気の子どもの一時預かりサービスなどの子育て支援を継続
- 子ども・子育て会議を設置し、子育てに関するニーズ調査を行い、子ども・子育て支援計画を策定

## 4 住み慣れた地域で 豊かに暮らせるまちづくり

- 医師確保に努め、新病院建設を推進
- 住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築
- 重度心身障害者医療費の自己負担を廃止
- 民間住宅の耐震診断と耐震改修工事に対する補助を継続

## 5 協働と連携により、 自立するまちづくり

- 旧村単位での地域特性を生かしたコミュニティ活動を支援し、住民参加型の地域活性化を図る
- 自治組織の活動や集会施設等の設備充実を支援し、活動の活性化を促進
- 厳しい行財政環境をふまえ、さらなる行財政改革に取り組む

### 施政方針に対する 質問

#### 上川議員

#### 防災拠点の整備を

やすらぎプラザ、総合会館、新小学校、旧高松法務局土庄出張所に太陽光発電と蓄電池設備を整備し、防災拠点としての機能強化を図るとあるが、役場庁舎が防災拠点となるべきでは。

《町長》役場庁舎は耐震化できていないので、他の施設に整備する。

今のうちに役場庁舎に替わる防災拠点対策を行ってほしい。

#### 教育行政をしっかりと

《町長》今後、土庄町の教育をどのように進めていくのか。

《町長》教育長を中心に、教育環境の充実、学力の向上に努めたい。

#### 山崎議員

就農希望移住者の支援を青年就農給付金制度とは。

《町長》就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、1人最大150万円を給付する。対象者は45歳未満で、地域農業マスタープランの中で、今後の農業を担う中心的存在と位置づけられた人。これまで3件給付している。

都会からの移住者で農業をしようと思っても、農地も何も持っていない人もいる。農地や機材をあつせんするなどの支援が必要では。

《農林水産課長》就農希望の移住者であっても、給付金を受けるには、その地域の地域農業マスタープランの中で、農業を担う中心的人物と位置づけられる必要がある。移住してすぐ給付金を受けるのは難しいかもしれないが、計画があれば受けることはできる。

#### 濱中議員

施政方針に数値目標を平成26年度施政方針大綱に、数値目標はほとんどないが、例えば将来的に観光客数や新規就農者をいくらするといいうように具体的な目標を。

《町長》いろいろな条件や捉え方によって変わるので具体的な数字は入っていないが、前年より上回ることを目指している。

地域包括ケアシステムと病院跡地利用の関係は今後構築を目指すという、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムと、土庄中央病院跡地利用との関係は。

《町長》土庄中央病院跡地利用として、地域包括ケアシステムの拠点整備も考えられる。4月から順次取り組んでいく。



総務建設常任委員会  
(12月10日・2月14日)

## 税務課・水道課・債権管理室

### 町税等の徴収と滞納対策

○町税の滞納処分の流れ  
納期限（翌日から延滞金加算）→督促状を出す→督促状発送から10日経過しても完納されない→財産調査→財産差押  
※10月と3月に催告書を送付

○水道使用料の徴収の流れ  
納期限がきても未納→請求月の翌々月10日頃督促状→未納→電話・訪問等による支払催促・分納協議  
今後は支払協議を進め、分納が一括納付を促し、応じなければ給水停止をすることも必要。

《委員》県内で給水停止を行っていないのは、土庄町含め数町しかない。町財政が非常に厳しい状況で、きちんと徴収していかなければならない。

## 農林水産課

### 鳥獣被害を減らすために

獣害に強い地域づくりと、有害鳥獣の捕獲により、鳥獣被害防止対策を進めている。

25年度の捕獲数は昨年度より増加している。

○鳥獣害に強い地域づくりのステップ

- ①みんなで勉強
- ②守れる集落・畑づくり
- ③自分でやる困い・追い払い
- ④捕獲と大規模柵の設置

《委員》町は柵の原材料を支給するが、設置は地元団体が行うのか。

《答》設置場所の伐採は委託して行うが、地域で守っていくという意識を高めるためにも地元で設置してもらう。



鳥獣害に強い地域づくりを

## 企画課

### 課の再編について

26年度から、債権管理室を出納室へ、人権対策課を住民環境課へ再編する。

《委員》債権管理室は、2年間で約1億円の滞納町税等を回収している。今後も債権回収に尽力するために、独立した課であるべきでは。

《答》出納室に再編後も、現在と同様に債権管理を行う。人材の有効活用、職員数のバランス等を考慮して再編する。

## 建設課

### 建築物の耐震支援を拡充

- ・住宅耐震診断  
9万円以内で、費用の90%を補助
- ・住宅耐震改修  
90万円以内で、費用の50%を補助

・病院、店舗、ホテル等の大規模建築物の耐震診断の義務化に伴い、耐震診断や改修にかかった費用を補助する。

病院再編調査特別委員会  
(2月17日)

### 小豆新病院の概要

#### 【診療科】

土庄中央病院・内海病院の診療科を引き継ぐ

【病床数】 234床

#### 【基本理念】

「地域の皆さんに寄り添う病院」として期待される地域の中核病院を目指す

#### 【建設スケジュール】

- 1/24 入札参加メット
- (2社の参加申請)
- 3/14 入札
- 3月下旬 工事請負契約締結、工事着手

← 平成28年春開院の予定

### 小豆医療組合が26年度に行う事業の概要

#### ○本体工事

年度中に7割完了の予定

○医療情報システムの整備

年度前半に病院関係者と協議後、業者を選定し、年度後半には構築作業に入る

○医療機器、什器備品等の整備

購入する機器の検討、選定作業を行う

○運営・組織等の検討

新病院の組織体制・運営方法の検討、例規等の整備



新病院内部イメージ

○院内保育所、医師看護師公舎の検討

《委員》新病院の状況について、町内の医療機関ともっと情報を共有し、連携を強化してほしい。

《委員》新病院への交通手段は、バスであれば、乗り換えなしで行けるようにしてほしい。

《答》関係者と協議し、バスや乗合タクシー等いろいろな方法を検討する。

《委員》土庄中央病院と内海病院が診療所になった後はどのように運営するのか。

《答》両病院を診療所として使用するための改修は各町で行い、経営や医師派遣等の運営は小豆医療組合で行う方針である。

※平成23年6月に当委員会を設置し、病院再編等について、地域医療を継続して提供するための方策を調査・審議してきたが、今回の委員会をもって調査を終了した。

教育民生常任委員会  
(12月19日・2月5日)

## 土庄中央病院・福祉課 健康増進課

土庄中央病院存続のため、島の医療の在り方を考える体制づくりを

病院から、統合後の新病院において地域医療人材育成センターの設置を含めた「小豆島医療福祉計画」の方向性について提案があった。

## 《委員会の意見》

「小豆島医療福祉計画」の実現に向けて、プロジェクトチームや専門の部署をつくり、職員の配置もすべき。地域医療人材育成センター構想についても予算をつけるなどして具体的に進めていただきたい。

## 住民環境課

一般廃棄物処理施設の整備状況

1月中旬頃に採石業者2社が県へ採石認可申請の書類を提出した。県と今後のスケジュールについて

て協議し、県もなるべく早く採石認可をする方向とのことであった。認可に必要な森林法、採石法等にかかる町の意見書の提出も迅速に行う。

## 教育総務課

新小学校工事現場を視察  
工事の進捗状況の説明を受け、工事が順調に進んでいることを確認。

## 給食費を値上げ

消費税増税に伴い、給食費を7〜8円値上げする。



子どもたちにおいしい給食を

## 健康増進課

地域包括支援センターの設置基準を条例で規定

権限移譲により、国が定めていた地域包括支援センターの設置基準（職

員の配置基準など）を条例で定める。

## 新型インフルエンザ等対策行動計画の策定

新型インフルエンザ等対策特別措置法の規定に基づき、有識者の意見聴取、関係機関との協議の上、町の行動計画を策定中である。

## 土庄中央病院

島の医療を守るため、庁内・島内の連携を

## ○診療体系等の変更

常勤医師の退職により、4月以降小児科の入院・救急対応が難しくなる。入院は、一般病床を一部休床し、療養病床に患者を回すが、全体としては減少となる。

今後、内海病院も内科医の退職予定があり、また、島内に常勤外科医が不在となるおそれもある。

## ○課題解決に向けて

小豆島町と連携し、島内問題として医療福祉政策を協議するシステムづくり、庁内での協議体制の整備を早急に行うこと

が必要。行政・議会・住民が一体となって継続的に取り組まなければならない。

## 《委員》時間内受診の呼びかけ後、救急や時間外受診の状況は。

《答》時間外受診は減少し、改善している。

## 《委員》庁内協議体制のイメージは。

《答》議会・町執行部・病院・福祉関係者等が集まって、島全体のことを考えた上で、町としての医療・福祉の方向性を考える体制。

《議長》病院問題については、議会も過去の反省をふまえ、積極的に関与していくが、町長・執行部で率先してやってもらいたい。

《町長》議会・病院・行政の三者が一体とならないといけないが、まずは病院と行政の意思疎通をもっと図っていく。庁内の体制整備も早急に行う。

観光振興特別委員会  
(2月17日)

## 芸術祭以外の期間もアートを活用して誘客を

地域の祭や行事と連動して、ワークショップや音楽など魅力あるイベントを開催し、芸術祭期間以外も観光客の誘客を図る。平成27年3月21日まで、迷路のまち「変幻自在の路地空間」、肥土山の「うみのうつわ」を継続公開する。芸術祭剰余金を活用し、島の活性化につながるイベントを数回開催する予定。



うみのうつわ

## 小豆島ロケの映画が続々と公開

小豆島で撮影した映画「魔女の宅急便」、「瀬戸内海賊物語」が3月から

5月にかけて公開される。これをきっかけに、更なる誘客を図り、地域活性化につなげる。

## 瀬戸内こども映画フェスティバル

映画上映、子どもたちに自然体験をもらう島遊び、映画脚本の募集をする「オリーブの島脚本賞」を中心とした瀬戸内こども映画フェスティバルを8月に開催する。

《委員》小豆島童謡音楽祭と瀬戸内こども映画フェスティバルを連動させるなどして、予算を有効に使用して、誘客してほしい。

《答》横の連携が必要なので、前向きに検討する。

《委員》小豆島のイベントが目で見えるような宣伝の工夫が必要では。

《答》情報発信は課題である。観光協会のホームページも充実させる。



## 水道事業特別委員会

(2月28日)

肥土山浄水場導水施設更新工事の進捗状況の説明を受けた後、4施設の工事について変更するかどうかを協議した。

### ①機械脱水機の導入

昨年3月に機械脱水機を導入し、汚泥処理をしているが、汚泥濃度が薄くなり、完全処理ができていない。この解消のため、同等の機械脱水機をもう1基導入するか。

### ②汚泥掻寄機のタイプ変更

汚泥掻寄機は、4つのタイプがあり、現在はロープ牽引式で設計しているが、施工方法、維持経費等を総合的に考え、モノレール式に変更したい。

### ③配水池の屋根構造

コンクリートスラブ、アルミ製、ステンレス製で構造、耐食性、経済性を比較した結果、アルミ製にしたい。

④自家発電設備の導入  
管理棟の工事施工とともに、管理棟内に自家発電設備を導入したい。

### 《委員会での検討結果》

①機械脱水機は、処理量増加のため、もう1基同じものを導入する。

②汚泥掻寄機は、修繕経費が低く抑えられるであろうモノレール式に変更する。

③配水池の屋根は、塩素ガスによる耐食性に優れ、維持経費も考慮し、アルミ製にする。

④自家発電設備は停電時の影響も考え、導入すべき。詳細は見積もりを取って、検討する。



工事が進む肥土山浄水場

## 1月臨時会

町長・副町長の給与を減額  
町長は1年間給与の50%を自主減額

三枝町長が就任して初めての臨時会が1月30日に開かれました。

町長の所信表明の後、

補正予算4件、条例1件、人事案件2件が提案され、いずれも原案どおり可決しました。

### 人事案件

(全員賛成)

◆副町長の選任に同意

難波正樹氏

(59歳・豊島家浦)

◆教育委員の任命に同意

藤本義則氏

(66歳・馬越)

### 平成25年度補正予算(全員賛成)

会計名	補正額	補正後 予算額	主な内容
一般会計	4291万 4千円	77億 6370 万円	○パソコン、プリンタの 購入、設定、撤去費 ○台風18号被害による ため池・水路の復旧
特別会計	国民健康 保険事業	23万 9千円	21億 573万円
	介護保険 事業	59万 8千円	15億 9125万円
	福祉サー ビス事業	72万 5千円	1億 2999万円

### 条例の一部改正

(賛成10・反対2)

◆町長・副町長の給与支給条例の一部改正

町長 76万5千円 → 76万3千円  
※平成26年4月から1年間は38万1500円

副町長 57万3千円 → 57万1千円

### 条例議案に対する討論

反対 山田議員

反対 福本議員

町長の個人的な問題から、条例を改正するのは反対。町長就任後に、問題があったなどで町長としての責任を取るために給与を減額するのであれば理解できるが、町長就任以前の問題のために給与を減額するということは理由にならない。

賛成 泊議員

賛成 濱中議員

特別職報酬審議会が町長が給与の自主減額をしたと報告し、委員も了解しているし、本人が自主的に行うのであれば賛成する。

町長がこの問題に対し、道義的責任を感じ、給与を削減するのであれば賛成する。

# 議員が町政を問う

ここが聞きたい



3月定例会では、7人の議員が一般質問を行いました。

全文記録（会議録）は、土庄町ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

土庄町ホームページ  
http://www.tonosho.kagawa.jp/

質問議員	質問事項
上川正衛	○今後の公共事業の落札見込みは ○瀬戸内国際芸術祭 2013 の運営方法について
濱中幸三	○新設高校への通学、土庄高校跡地利用について ○観光を中心に町の振興を ○医療福祉計画の策定作業は進んでいるか
泊満夫	○移住促進事業交付金の助成拡大を ○まちづくりのためのプロジェクトチームや検討会の立ち上げを ○情報公開条例の改正を
佐々木邦久	○具体的な農地の荒廃地対策を ○農道補修を一般道並みに格上げを
藤本誠助	○空き家問題について ○土庄中央病院の跡地利用と地域医療人材育成センターについて
福本耕太	○地域医療を守るビジョンについて ○障害者福祉金制度の創設を ○高すぎる国保税の引き下げを
山田建之	○滞納町税の徴収と時効による欠損処理について



上川正衛 議員

公共事業の入札不調を  
どう回避するか

上川 国や地方自治体の公共事業で受注業者が決まらない入札不調が相次いでいる。小豆医療組合でも、3月14日に新病院建設工事の入札が行われたが、予定価格を上回っていたため、落札に至らなかった。今後数年間、町では大型公共施設の建設事業が集中している。厳しい財政状況下で、入札不調をどうやって回避していくのか。

企画課長 入札不調の主な原因は、職人等の不足と、急激な人件費や資材価格の高騰により、実勢価格と設計価格がかい離していることである。直近の単価を適用した設計価格にすることを徹底するとともに、実勢価

格とかい離のおそれがある場合は、業者やメーカーから見積りを取り、変動する経済環境や価格動向等を総合的に考慮して、適切な価格設定に努める。

上川 公共事業の場合、価格設定から入札までの期間が長い、昨今のようないきなり価格が変動する状況に対応できるのか。

企画課長 応札者の見積りを活用し、実勢価格を予定価格に反映するように努め、資材費や労務費の変動に備え、柔軟な対応を図る必要がある。

瀬戸内国際芸術祭  
2013の運営方法は

上川 過去2回開催された瀬戸内国際芸術祭では、多くの人が小豆島を訪れ、大きな成果があった。過去2回を比べると、2013年は、小豆島内の作品展示場所に偏りがあるように思われる。香川県知事は、2016年に芸術祭を開催する意向を表明したが、町も次の開催に向け、今からでも準備し、小豆島全体がまんべんなく会場となるように働きかけるべきでは。

備し、小豆島全体がまんべんなく会場となるように働きかけるべきでは。

商工観光課長 作品数だけみると、2013年は、豊島を含む土庄町には23作品、小豆島町には22作品あり、ほぼ同数。会場の決定や運営方法については、北川フラム総合ディレクターの意向が大きく影響し、県知事は北川氏への権限集中に批判が出たこと等を受け、今後は県がより主体的に関与できるように体制を見直すとしている。

次回開催に向け、関係市町の主体性が発揮できるような組織体制・運営方法になるように実行委員会とともに取り組んでいく。



多くの人でにぎわった芸術祭



新設高校への通学路の整備や土庄高校の跡地利用をどうする

濱中 県は新設高校を東蒲生に建設する計画を進めている。県は土庄町民に、東蒲生に建設する理由や、遠距離通学となることに對し、丁寧に説明するとともに、通学路を整備して通学時の安全を確保するべきである。また、町は土庄高校跡地をどのように活用するのか。

企画課長 学校の再編については、保護者や住民に丁寧に説明し、その必要性について共通の理解を深めることが重要。

高校跡地については、県や小豆2町の関係者で構成する跡地活用方策検討会で協議されているが、町としても県に意見を伝えていく。



濱中幸三 議員

建設課長 国道436号の整備については、小豆2町と交通関係団体で、整備促進期成同盟会を発足し、道路改良の要望を進めている。新設高校の開校予定の平成29年4月までに、歩道整備等が完了するように、県とともに努力する。

観光を中心に町の振興を

濱中 町の基幹産業である観光産業をどのように振興していくのか。広域観光、農漁業の6次産業化を進めるべきでは。

地域の自然や景観などを守るために、景観条例の重点地区に定め、観光に活用することが必要では。そのために、地域おこし協力隊を活用してはどうか。

商工観光課長 広域観光については、関西・中国・四国にも積極的に情報発信していく。6次産業化については、農林漁業者や県、農協等関係機関と連携し、進めていく。景観条例の重点地区と、観光の重点地区は異なる点

もあるが、まちづくりや地域活性化を図るという意味で、観光の重点地区をどのように整備していくか検討する。地域おこし協力隊の活用は、関係課と協議する。



豊島檀山の展望台

医療福祉計画の策定は

濱中 昨年12月に執行部が提案した小豆島医療福祉計画は具体的に進めているのか。土庄中央病院では3月末で小児科医が退職するが、小児救急への対応は。

町長 小豆地域の医療について、小豆島町長と随時意見交換を行っている。4月からは地域医療再生対策室を設け、地域医療の確保・充実策や、医療機関との連携・協力について検討していく。小児救急については、内海病院と相談し、対応策を考えていく。

移住促進交付金の

助成拡大を

泊 土庄町では、空き家バンクを利用した移住者1人につき5万円、1世帯20万円を上限に助成金を交付している。小豆島町では、空き家バンクへの登録を条件に、空き家所有者に對し、家屋の改修等の経費に50万円を上限に補助金を交付している。各自自治体で独自の移住促進策を打ち出しているが、土庄町も助成額の拡大などが必要では。



泊 満夫 議員

企画課長 移住促進交付金は、移住者へ直接フォローができると考えている。最も大切なことは、地域住民の住みやすさを追求することであるということを基本に、小豆島町とも情報交換しながら、今後より有効な移住促進策を検討する。

進施策を検討する。

まちづくりのためのプロジェクトチーム等の立ち上げを

泊 昨年、迷路のまちのインフラ整備に関する一般質問で、行政と民間のまちづくり委員会等で検討会をつくるよう提案したが、早急な立ち上げをお願いしたい。大学等も交え、その検討会で迷路のまちの歴史検証、インフラ整備等を研究、検討する必要がある。芸術家村のようなマイスタービレッジも検討してみてもいい。

商工観光課長 迷路のまちづくり委員会や地元各種団体、土庄町村里づくりグループなどで、検討会の立ち上げについて協議したい。大学等との連携により、地域活性化の取り組みについて情報収集し、マイスタービレッジ等についても検討していきたい。まずは、町全体の将来構想をきちんと描くことが重要であり、その構想の中の1つとして、迷路のまちをどうす

るかという議論になると考えている。



迷路のまちの陣屋跡

情報公開条例の改正を

泊 土庄町情報公開条例の附則第2項第2号に、条例の適用の対象となる情報について「条例の施行の日前に決裁又は閲覧の手續きが終了し、保存期間が永久と定められているもの」とあるが、情報公開の目的を實踐するため、規定の見直しを。

企画課長 この条例は平成12年10月1日から施行されている。土庄町処務規則で定める公文書の保存期間は1年、5年、10年、永久であるので、条例施行から13年以上経過しており、この附則第2項第2号に適用される情報は、永久保存公文書を除き、存在しない。



佐々木邦久 議員

### 農地の荒廃化をどう防ぐ

佐々木 中山間地域直接支払制度、農地・水保全管理制度などを利用し、農地を守るための事業に取り組んできたが、農業者の減少もあり、田畑の荒廃が止まらない。具体的にどうやって、耕作放棄地を解消していくのか。荒廃地はサルやシカの巣になり、獣害の原因にもなる。町でそのような荒廃地を裸地にして、緩衝地帯にしていくような取り組みはできないか。

に守っていくか、地域の中核的な農業者や担い手をどのように確保するかなど、地域の将来のプランを作成し、各種補助事業を活用して、県や農協等関係機関と連携しながら、荒廃地対策や営農支援を行っていく。

町長 給食等に使用する野菜などを、町内の生産者につくってもらう仕組みをつくれば、生産者の生産意欲も上がり、耕作放棄地や休耕地の減少にもつながるのではないかと考えている。今後、限界集落が増えてくることも視野に入れ、町の農業をどうしていくのか、対応を考えていく。

### 町道と同じように

#### 農道の補修を

農林水産課長 近年の農業・農村は、高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、人と農地の問題がある。この問題の解決のため、町と県は、各地域で人・農地プランの作成を推進している。地域の農地をどのよう

佐々木 傷んだ農道は人が通らず、さらに傷むという悪循環になっている。農道は町道に比べ、補修のための予算も少なく、なかなか補修してもらえない。自治会等で環境整備も行っているが、追いつかない。このままでは、

大きな災害があったときに問題になりかねない。農道補修の遅れを改善できる対策を考えてほしい。



傷みが進む農道

農林水産課長 町道の管理は町が行うが、農道は受益者が管理するものである。受益者の少ない狭小な農道の修繕は、町が原材料費、補助金を助成し、関係者が補修している。高齢化や耕作放棄地の増加による受益者の減少により、これまでのような維持管理ができなくなっていることは認識しているが、農道の補修などを一般道と同じように行うことは難しい。町としては、互助・共助の考え方で地域全体で維持管理を行うよう、自治会にも働きかけていく。



藤本誠助 議員

### 増える空き家への対策は

藤本 空き家には、保安上危険な建築物で補強の必要なものや、撤去する必要があるものもあり、地震等によりそのような空き家が倒壊すれば、道がふさがれることも考えられる。

町内に居住世帯のない空き家はどれくらいあるのか。所有者不明の空き家にはどう対応しているのか。今後も高齢化を原因とした空き家の増加は進むと思われるが、どのようにこの問題に取り組んでいくのか。

住民環境課長 平成20年住宅・土地統計調査によると、町内の住宅総数の約20%にあたる1600戸が空き家である。空き家の倒壊危険性などの相談があった場合は、



増える空き家をどうする

美しいまちづくり条例に基づき、空き家の所有者や相続人に、適切な管理を求め、必要に応じ指導をしている。所有者不明の空き家については、登記簿謄本の確認や、相続人を探す等して、所有者や相続人に、適正な管理を文書でお願いしている。今後は、老朽化した空き家の適正な管理について、所有者に指導・勧告し、空き家になる前から不良住宅にならないように啓発するとともに、空き家バンク制度の活用促進も重要である。国においても、空き家対策の推進に関する特別措置法案の整備に向けた動きがあるので、今後の動向を注視したい。

土庄中央病院の跡地と地域医療人材育成センターをどうするのか

藤本 土庄中央病院の跡地利用について、町長はどのように考えているのか。これまでも、地域医療人材育成センターを立ち上げる話は出ていたが、進んでいない。早急に立ち上げる必要があるのでは。

町長 地域医療は、病院だけで完結するものではなく、医療・福祉・健康づくりの施策をバランスよく展開しなければならぬ。4月から「地域医療再生対策室」を創設し、中央病院の跡地活用方策等を含め検討する。

地域医療人材育成センターは、国・県、各大学等の支援も必要になるが、三宅院長を中心に関係機関とともに実現に向けて検討する。

藤本 既に研修生も来ているので、地域医療人材育成センターの看板だけでも早急に掲げ、取り組む姿勢を見せてほしい。



新病院建設を中止し、土庄中央病院を軸に地域医療の再生を

福本 新病院建設計画が出されて今日まで、土庄中央病院、内海病院では、多くの医師が退職している。各病院の退職した医師数は。町長は医師の退職原因の分析も行っていないが、このような状況で地域医療再生が実現できるのか。できない場合はどう責任を取るのか。



福本耕太 議員

町長 土庄中央病院では、平成23年度から整形外科医3名、内科医2名、小児科医1名、外科医1名が退職。内海病院は報告できない。医師不足への対応としては、今後も関係機関や大学と連携し、医師派遣を依頼するなどの対策を図る。

また、医師の労働環境の改善にも努め、住民への意識啓発も継続的に行う。



まちの医療を支える土庄中央病院

障害者への給付金制度の創設を

福本 県下で20歳以上の障害者への給付金制度がない自治体は、わが町を含め3市町である。多くの障害者が就労に困難を抱え、極めて少ない所得で厳しい生活を送っている。障害者の暮らしを守るため、給付金制度を早急に創設すべき。

ちなみに、小豆島町では、障害の程度によって異なるが、年間6万6千円から3万9千6百円を給付している。

福祉課長 負担軽減策として医療費支給を行っているので、給付金事業は

考えていない。

福本 医療費の負担軽減は重要な政策だが、現金給付が必要。

国保税の引き下げを

福本 国民皆保険制度の中で、低所得者が加入できる最後の砦が国保である。

昨今の不景気、物価上昇、増税は、低所得者の暮らしを圧迫し、国保加入者から「国保税が高すぎて納めたくても、納めきれない」と悲鳴が上がっている。1世帯年間1万円の引き下げを求める。

福祉課長 引き下げをしたいが、そうすれば税収の減少分を補てんする新たな財源がないため、引き下げは困難である。

福本 他の自治体のように、一般会計から繰り入れて補てんすべき。

公正な税徴収が行われていなかった責任は

山田 町長が経営していたホテル2社が滞納していた固定資産税を、町は時効により欠損処理している。欠損処理するにはきちんとした理由が必要であるが、経営不振を理由に欠損処理したことに正当性はあるか。なぜ、時効までに差押えをしなかったのか。公正な税徴収が行われなかったことは、町に損害を与えたことになる。町民から損害賠償請求される可能性もある。今後、町はどのような措置をするのか。

税務課長 欠損処理は、地方税法第18条により地方税の徴収権を5年間行使しなかったことにより、時効により消滅したことによる。

経営不振という理由付けについては、今後検討していきたい。

差押えをしていない件については、警察に事情聴取されており、回答は控える。町が被った損害の責任は、刑事的責任については、前町長らが背任容疑で告発されており、警察の事情聴取も受けている。今は状況を見守っており、民事的責任については弁護士等とも相談し、今後の対応を検討する。

不明である。今後はそのようなことがないよう改善していく。時効の到来前の欠損処理は、事務処理上の誤りである。

山田 議会の議決を得ずに放棄した債権の欠損処理は無効ではないか。

町は町税の滞納者に催告書等を出しているのに、町長は、経営していたホテルの町税滞納も認識しているはずである。議会で、分からないと発言したのはなぜか。

山田 欠損処理や差押えの明確な基準がないということは、町長や副町長ではないか。また、過去に、町長と町長経営ホテルの共有名義の滞納固定資産税を、時効が到来する数日前に欠損処理していたものがある。債権の放棄は議会の議決が必要だが、なぜそのような処理をしたのか。

副町長 経営不振を理由に欠損処理を行っていたが、細かい理由や経緯は



公正な税の徴収を

税務課長 債権放棄については、是正措置等がとれるかどうかを含め、県にも相談している。

町長 税金については会社の経理と町とで話をしていたし、前町長から話も聞いていない。過去の経緯は分からない。

## 視察研修報告 議会改革を学ぶ

日時：平成26年2月19日  
視察先：広島県神石高原町

土庄町議会では、住民により分かりやすく開かれた議会を目指し、議会の改革・活性化の方策について検討しています。

議会改革・活性化の取り組みを学ぶため、議会運営委員会で神石高原町に視察研修に行きました。

### 神石高原町議会の取り組み

神石高原町の人口は約1万人で、議員定数は14人です。

平成23年12月に議会改革推進特別委員会を設置し、平成24年9月に議会運営の基本ルールであり、最高規範となる議会基本条例を定めています。

### ○質疑は一問一答で

一般質問など議員と町長等との質疑応答は、論点を分かりやすくするため一問一答（質問と答え

を交互に行う）で行っています。

### ○議会報告会の実施

昨年5月に町内4地区で、直接住民に議会の活動を報告し、住民からの意見を聞く場を初めて設けました。各地区約50、60人の参加があり、今年5月にも開催を予定しているそうです。

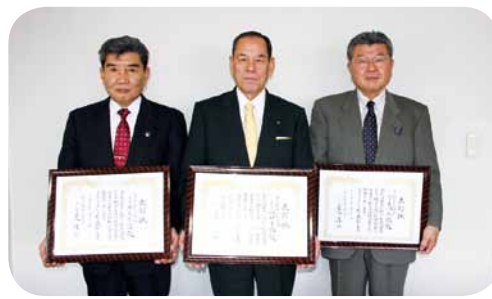
### 視察研修を終えて

現在、土庄町議会の一般質問は、複数の質問事項がある場合も、一度に全ての質問をして、それに対する答弁も、一度に複数の項目について行われるため、分かりにくいことがあります。今後、一問一答方式の導入も検討し、議会の改革・活性化を進めていきます。



## 自治功勞表彰

2月26日開催の香川県町村議会議長会第65回総会において、川口幸路議員、井上正清議員、上川正衛議員が、香川県町村議会議長会から自治功勞者（町議会議員として10年以上在職し、功勞のあった者）として表彰されました。



## 議会改革活性化 特別委員会 正副委員長の変更

2月28日の委員会で、委員長に泊満夫委員、副委員長に山本良照委員が互選されました。

## 議会日誌 (2/6 ~ 5/5)

2/10	全員協議会	3/7	3月定例会本会議①
2/14	総務建設常任委員会	3/10	3月定例会本会議②
2/17	病院再編調査特別委員会		議会運営委員会
	観光振興特別委員会	3/11	総務建設常任委員会（開会中）
2/19	議会運営委員会視察研修	3/12	教育民生常任委員会（開会中）
2/28	議会運営委員会	3/20	3月定例会本会議③
	議会改革活性化特別委員会		議会運営委員会
	水道事業特別委員会	3/25	3月定例会本会議④
3/3	全員協議会	4/7	小豆医療組合議会臨時会
3/6	伝法川防災池事業組合議会本会議	4/9	議会広報特別委員会
	土庄町小豆島町環境衛生組合議会本会議	4/17	総務建設常任委員会
	小豆地区広域行政事務組合議会本会議	4/30	教育民生常任委員会
	小豆医療組合議会本会議		

## 議会の生の声を 聞いてみませんか？

次回定例会は

**6月中旬から**

の予定です

詳しくは議会事務局へ

☎ 62-7011

議会日程は町ホームページでもお知らせしています

## 編集後記

暖かな日差しに淡緑の若葉が芽吹き、野花の香りが春の訪れを感じさせます。幼かった子ども達の凛々しくなった姿を見ると「時の経過は成長を伴う」と気付かれます。今年ついに「子ども医療費無料化」が中卒まで拡大されました。しかし、実現までの道のりは決して容易ではありませんでした。多くの署名が集められ、十数年の歳月がかかりました。苦悩と葛藤、挫折と努力を重ね、一歩また一歩。成長する子ども達の姿と重なります。一方、「安心して暮らせる土庄町」の実現には、まだまだ課題が山積です。少子化の主たる原因、不安定雇用と低賃金、子育て世帯の所得低下に歯止めをかける必要があります。高齢化社会を支える年金、介護、地域医療の再生に、確かな羅針盤をもった議会へと成長するための努力が必要です。

《 耕太 記 》